

## 今月の情報



E-mail: honbu@otedama.jp

● お問い合わせなどメールをご利用ください



http://www.otedama.jp

● たまちゃん通信はホームページに掲載

日本のお手玉の会本部

〒792-0013 愛媛県新居浜市泉池町 10番1号



TEL : 0897-32-0302



FAX : 0897-32-0311

### 鹿児島お手玉の会が普及を続けて10年 読売新聞が山本清洋会長に活動の内容を聞く

鹿児島お手玉の会は、設立から10年を経過しました。この節目の年に当たり、4月20日、第11回お手玉遊び大会 in 鹿児島を開催するなど、山本清洋会長(日本のお手玉の会副会長)は、次なる飛躍に向けて抱負を述べています。

「今年度は、第二期の新しいスタートを切ることにあります。現在、鹿児島お手玉の会は、奄美市名瀬、始良市、加世田市金峰町、鹿児島市、西之表市の5つの支部、会員数150名を有しています。これからも、鹿児島島の特性を生かした活動に取り組んでいきます」と、意欲を示しています。

同時に、これからの活動への希望として、次の4点をあげています。

- ① お手玉文化を受け継ぐ、大学生の参加を増やす
  - ② 福祉領域でお手玉を活かす青年たちの参加を促す
  - ③ 障害者と健常者がともに楽しめるお手玉遊びを生活に
  - ④ お手玉遊びをとおして地域に役立つ事業の展開
- こうした山本会長の活動への取り組みを、読売新聞(平成26年2月2日付)に「お手玉の普及が続け10年、鹿児島の手玉遊びの幅を広げる」との見出しで記事が掲載されましたので、紹介します。



## 県内の市町村すべてに支部を作りお手玉遊びを生活に

### 「読売新聞」の記事から

「昔ながらの遊びの普及を目指す『鹿児島お手玉の会』(事務局・始良市)が、結成10年を迎えた。東北震災の被災地を激励するなど年々活動の幅を広げている。会長で鹿児島大学名誉教授(教育学)の山本清洋さん(71)は『有効なコミュニケーションの手段として、さらに広めたい』と意気込んでいる。

時代の変遷とともに次第に遊ばれなくなったお手玉。1992年、愛媛県新居浜市の市民グループが『日本のお手玉の会』を設立して全国大会を開いたことがきっかけに復活した。大会は今も続いており、毎年、全国から1500人以上が出場するという。

山本さんは子どもの遊びやスポーツに関する研究の中で、『両手を使うことで左右の脳を活性化させる』というお手玉の効果に着目。老人施設の入所者や子どもたちに広めようと、2003年、鹿児島お手玉の会を結成した。

山本さんは『スポーツと違い、お手玉やおはじきは自分たちでルールをきめる。そこで会話や知恵が生まれ、初心者から上級者まで一緒にあそべる』と良さを説明。一方、『ルールがないからこそ、伝承者がいないと絶滅してしまう』と会の存在意義を語る。

現在、指宿や種子島など5か所に支部があり、約150人が所属している。活動は普及的にとどまらず、12年には東日本大震災の被災地にお手玉1000個を送ったほか、『笑顔を届けよう』と、岩手県釜石市の仮設住宅を訪ねて技を披露したという。

『県内全ての市町村に支部を作るのが目標』と山本さん。『子どもに普及させるには、知識と技術を持った大人が必要。イベントを開くなどして活動の幅を広げたい』と話している。